

講義・演習「支援者として人を巻き込みプロジェクトをコーディネートする」

講師:みらいずworks 代表理事 小見 まいこ 様

- 1 講師の自己紹介後、講義・演習の目的を確認した。
- 2 ワーク:「今の気持ち」「支援者としてのGOOD&NEW」をお題にしたフリップゲーム
- 3 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進に係る講話
 - ・ 熟議について
 - ・ 学校運営協議会委員は公務員であること(守秘義務の順守等)
 - ・ 「持続可能性」「社会総掛かり」「目標・ビジョンの共有」がキーワードであること
- 4 地域コーディネーターの役割と留意点
 - ・ つなぐときは、ねらいや育てたい資質能力を意識すること
 - ・ 学校、地域の課題にアンテナを張って協働のタネを

見つけること

- ・ 目標やビジョンなどを熟議する場をつくること
- 5 大人が学び、大人の関係性を高めることが、豊かな学びの土壌・環境をつくり、ひいては、子供たちの資質・能力を高め、育むことにつながる。
 - 6 第1回目の「おさらい」:五十嵐担当
 - ・ 学校評議員会と学校運営協議会の課題について
 - ・ 学校を拠点にした地域住民主体の活動(ドット)について
 - ・ 学校の施設設備の開放について
 - ・ 学校は副次的に関わることについて
 - ・ 「ソーシャルデザイン」に係る要素について
 - 7 ワーク:ブレインライティングによるアイデア出し
テーマ:「学校を拠点に地域の学びをつくる」
個人で「気になるアイデア」を一つに絞り込む

TOPIC

協働事業のプロセスデザイン

8 協働事業のプロセスデザイン

- ・ 基軸デザイン:目標の設定、前提条件の整理、達成目標の明確化、予算とスケジュール・組織デザイン:参加対象者の設定、運営組織づくり、専門家の選定、情報共有の仕方
- ・ プロセスデザイン:目標に向けた手順、計画や協議プロセス、関係性構築

※1 成功の循環モデル:関係の質→思考の質→行動の質→結果の質

※2 組織としての結果の質を高めるためには、まず「関係性の質」を高めることが肝要である。関係性の質を高めた組織では、チームメンバーがより能動的にアイデアを出し、他のメンバーから出されたアイデアに対しても前向きな意見を述べるようになり、チームとしての思考の質が高まる。高い質の思考は行動の質につながり、結果の質の高さへとつなげることができる。

9 ワーク:プロセスデザインシートの作成

- ・ 基軸デザイン、組織デザイン、プロセスデザインの項目を記述

10 ワーク:大切な友だち(プロセスデザインシートの共有)

- ・ 「良い点、共感した点」と「改善した方が良かった点や相手のためになると思った点についての質問」をそれぞれ付箋に記述してフィードバックする。

※ 改善点をズバリと明記するのではなく、質問形式で相手に伝えることが大切である。

11 ワーク:「楽しかった、成果を感じた場には、どんな工夫があった?」をお題にしたフリップゲーム

① 行動につながるステップを踏む

会話 → 対話 → 議論 のステップを踏むことが重要である。

いきなり議論しろと言われても、初めて参加する人は発言できない。結局、発言力のある人や立場の強い人だけが話をすることになりがちである。声なき声をたくさん集めることが大切である。

② 弱さや不安を表現する(どんなことでも言い合える場づくりが大切である)。

③ 楽しい妄想やワクワク感を演出する

④ そもそも何のため?を考える(一度立ち止まって足元を見つめ直すことも大切である)。

⑤ 小さな実験からやってみる(できない理由ばかり考えるよりも、まず小さくやってみることが大切である。徐々に完成度を高めていけばよい)。

12 ファシリテーション、ファシリテーターについて

ファシリテーターの役割で特に重要な要素は、「空間デザイン」「テーマ設定」「見える化」である。ホワイトボード等を使って「見える化」して、収束することは重要である。

13 ワーク:「場と手法のデザイン」または、「課題設定と一人会議」

14 ワーク:大切な友だち(13のシートの共有)

15 ワーク:「今日の気づき、感想」

「良質の体験」と「ふりかえり」によって、深い学びが得られる。

VOICE

「デザインすることの大切さ、共有することの大切さを学びました。とても実践的で現場で活かしていきたいです。」

「とても充実した時間でした。難しい課題もありますが、楽しむ・ワクワクが大切なんだと改めて思いました。実際に行動に移せるように頑張ります。」

「具体的な実践計画などを作成することで、色々なことをイメージして考え、学ぶことができたので、充実した一日でした。」

「学校のこと、地域のことを真剣に考える時間ができました。小さなことでも一歩踏み出すことが大事だと気付きました。」

